

子どもと女性の
健康相談室

78



福島医大付属病院小児外科教授

田中 秀明氏

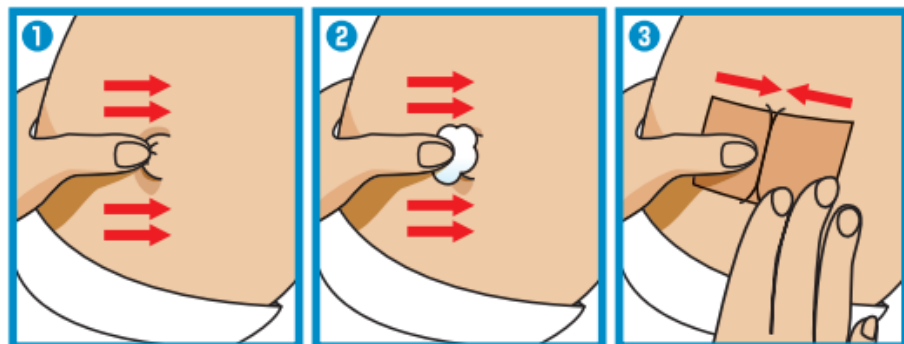
いる場合は緊急の処置が必要なのですぐに病院へ駆けつけてください。
このように臍ヘルニアは経過観察が基本ですが、私たちは圧迫療法と

経過観察と圧迫療法

赤ちゃんのおへそがポッコリ膨らんでいる状態は「臍(さい)ヘルニア」と呼ばれます。新生児の5〜10人に1人の割合で発生するものです。生まれた後へその緒は脱落し、その下の筋肉の層が収縮して壁ができますが、その穴が閉じずに隙間(ヘルニア門と呼びます)となっているのが臍ヘルニアです。泣いた時などに力むとそこから腸が出て、泣きやむと元に戻るというのを繰り返します。生後3〜6カ月頃が突出のピークで、最大で4〜5cmくらいになることもあります。

すぐに手術かと心配になりますが、多くの場合成長と共にヘルニア門が小さくなり、1歳までに約8割、2歳になる頃に

臍ヘルニア



① 出ている腸を完全に押し込める

② ティッシュを切って丸めたものでふたをするように押さえつける

③ ティッシュが見えなくなるくらい左右の皮膚を寄せ、医療用のテープで固定する

は9割が自然に治ります。このため臍ヘルニアの基本方針は経過観察で、2歳を超えて治らない場合に手術が必要になります。もしくはヘルニア門が閉鎖しても、長期間突出が続いたことによる皮膚のたるみが目立つ場合も手術を検討します。手術は臍の下半周を切開してヘルニア門をふさぐとともに、皮膚を薄くしてくぼみを作りま

す。1時間程度の手術で翌日には退院でき、抜糸は必要ありません。まれに飛び出た腸が締め付けられて戻らなくなる嵌頓(かんどん)が起こり得ます。いつもと違った痛みが方突出の硬さや赤み、また嘔吐(おうと)して

いう治療を行っています。これは外来通院のままヘルニア門を押さえ続けることでその閉鎖を促し、皮膚のたるみを防ぐのが目的です。腸を押し戻した上からティッシュペーパーを半分くらいに切って丸めたものでふたをし、両脇の皮膚をよせつつその上にテープを2、3枚張りつけて固定します(図)。入浴の際は外し、入浴後に家で親御さんにこれを継続して

いただきます。早期に始めれば2カ月くらいで大幅な改善を実感できます。この治療の途中で皮膚がただれることもあるので、圧迫療法になれた医師の指示の下で行うのが重要です。

ふくしま子ども・女性医療支援センター

<http://www.fmu.ac.jp/home/fmccw/>